

病児・病後児保育事業について

1. 病児・病後児保育とは・・・

- ①病児保育・・・病気の治療中であっても、症状が安定していて入院治療の必要はないと医師が判断した場合に利用できる。
- ②病後児保育・・・病気の治療中であっても、症状が軽度で回復期にあり入院治療の必要はないが、安静の確保に配慮する必要があると医師が判断した場合に利用できる。

※病気の回復期とは

- (1) 乳幼児が日常かかる病気（かぜ、扁桃腺炎、嘔吐下痢症など）
→急性期を経過した後
- (2) 伝染性疾患（水痘、風疹、おたふくかぜなど）
→急性期を経過し、伝染の可能性がなくなってから
- (3) 慢性疾患（気管支炎、喘息など）→発作がおさまってから
- (4) 外傷性疾患の養生期（骨折、やけどなど）→症状が固定してから

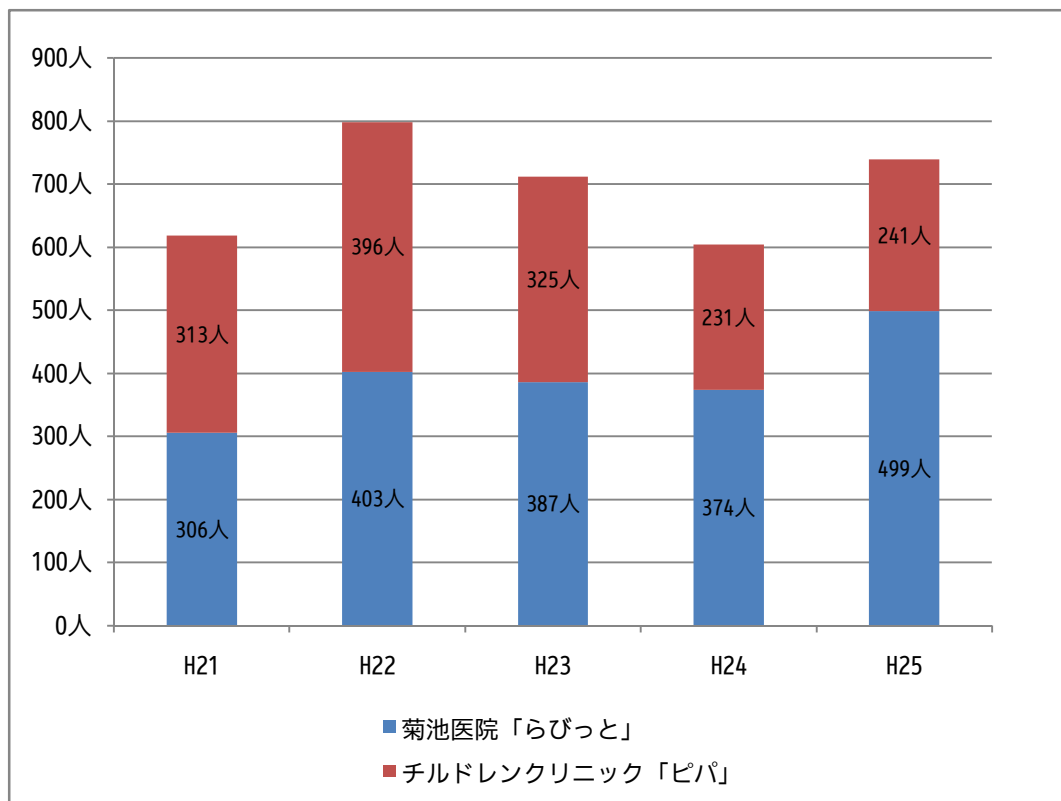
2. 郡山市の状況

就学前の児童が病気の回復期にあるときに、一時的に預かる病後児保育事業を2施設（医療機関併設）に委託して実施している。（定員・・・各施設とも4名）

3. 病後児保育の実績（利用者数）

※H25は利用見込み数

	H21	H22	H23	H24	H25
菊池医院「らびっと」	306人	403人	387人	374人	499人
チルドレンクリニック「ピパ」	313人	396人	325人	231人	241人
計	619人	799人	712人	605人	740人



4. 平成25年度病後児保育利用者の保育状況

※H25は4月から12月
までの人数

	らびっと	ピパ
利用者数	376人	181人
保育所等（認可保育所・認可外保育施設・幼稚園等）	361人	173人
家庭	15人	8人

5. 郡山市の病院・診療所の状況

※H24.3.31現在

①郡山市の小児科医

	施設数
病院	8施設
診療所	69施設
	72施設

②郡山市の病院・診療所でこどもが入院できる施設と病床数

	施設数	病床数
病院	8施設	2760
診療所	8施設	113
	16施設	2873
（うち小児専門）	1施設	19

※16施設ともにこども
の入院も対応可能な病院。
ただし、病床数は一般の
病床数。

6. 平成26年度に向けて

子ども・子育てニーズ調査分析

幼稚園や保育所などの平日の定期的な教育・保育事業を利用している方のうち、子どもが、病気やケガで、教育・保育事業を利用できなかったことが「あった」が76.4%で、そのうち、父・母が休んだ方が86.1%であった。

その86.1%のうち、病児・病後児保育施設を利用したい人が44.2%となっており、この割合を平成25年4月1日現在の未就学児数約1万6千人うち施設利用者1万人で換算すると、約4千5百人の潜在需要が見込まれる。

また、主に利用したい地区の「問」には、大槻地区が19.8%、安積地区が10.8%、富田地区が9.9%、富久山地区が9.0%となっており、新興住宅地での希望が多くなっている。

主に利用したい地区を選んだ理由としては、自宅に近いのが77.8%となっている。

これらを総合的に分析すると、潜在的な利用希望者は多数居り、未就学児が多い新興住宅地での需要があるため、病後児保育事業を病児・病後児保育事業に拡充し、現在実施の2施設（本町、大槻地区）に、新規の2施設（ニーズの多い大槻地区、富久山地区）を加えた4施設で実施することで、受け入れ定員数を現在の8名から18名に増やし、利用者のニーズに対応したい。